

環境経済・政策研究投稿規定・執筆要領

投稿規定

1. 環境経済・政策に関する分野での研究論文で、未公開のものに限る。また、他雑誌との二重投稿を禁ずる。投稿論文を外国語訳し、外国語雑誌に投稿することも禁ずる。
2. 投稿原稿は以下の投稿区分に分類される。(a) 学術研究論文(独創性を有し、学術的貢献度の高い論文)、(b) 研究報告論文(新規性を有し、資料的価値や速報性を重視した論文)、(c) 環境論壇(編集委員会によって設定されたテーマに関する論文)。各区分の詳細については別途定める。
3. 環境経済・政策学会の会員・非会員を問わず投稿を受け付ける。投稿者は、著者全員が非会員の場合、投稿料(5千円)を、また、掲載が決定した場合は、別途掲載料(5千円)を支払う。ただし、編集委員会が執筆を依頼した場合は、その限りではない。
4. 投稿論文の1ページ目に標題、要旨(300字以内)、キーワード(5個以内)を入れ、2ページ目から本文とすること。論文ファイルはそのまま査読者に渡されるので著者名、著者所属、謝辞は論文中には入れないこと。
5. 投稿は、学会サイトから行う。投稿論文はPDFファイルまたはMSワードファイルを用いること。著者全員が非会員の場合は、学協会サポートセンター(scsc@gakkyokai.jp)の指示に従い、投稿料を支払うこと。
6. 掲載論文の著作権は、環境経済・政策学会が有する。書物その他の媒体に転載(外国語訳を含む)する場合には、環境経済・政策学会の許可が必要である。

執筆要領

1. 使用言語 投稿論文は日本語とし、図・表・参考文献・注釈を含めて20,000字以内とする。字数制限は厳守すること。なお、標題、要旨等はこれに含めない。
2. 論文構成 節・項立てとする。
 - 節………1からアラビア数字順(見出しをつける)
 - 項………1.1, 1.2とアラビア数字順(見出しをつける)
3. 文体 「である調」を使用し、「ですます調」は用いない。接続詞・副詞などの書き方は、論文を通して統一する(例:「したがって・従って」、「さらに・更に」などと混在させないこと)
4. 数字 原則としてアラビア数字を用いる。ただし、「一意に」、「二重配当」、「二酸化炭素」、「第三セクター」、「三位一体」など、すでに慣用化しているもの、あるいは熟語になっているものは認める。

5. 年号 原則として西暦を用いる。
 6. 単位語 一般的に周知されている単位は記号を用いる (例: kg, km², t, %など)。専門的な単位は最初に読みとともに導入し, その後記号を使用する (例: ジュール (J))。
 7. 注の入れ方 1), 2)...とアラビア数字で脚注または文末注とすること。
 8. 句読点 「,」(コンマ), 「.」(ピリオド) を使用する。
 9. 参考文献の引用の仕方は, 邦文の場合は著者名(刊行年, xx 頁), 欧文の場合は Author(刊行年, p.xx)等とすること (文献全体を参照する場合, 頁番号は不要)。ただし, 文章末に引用する場合は, 文章 (著者名, 刊行年, xx 頁) ピリオドとすること。同じ年号で複数ある場合は, 著者名(年号 a)というように, 小文字のアルファベットを付すこと。文献リストは, 和洋混在の形式とし, 著者名のファミリー・ネームのアルファベット順に並べる。同一著者の文献については, 刊行年の古い順から並べる。
- 論文の場合の参考文献の書き方
- ・ Cropper, M. L. and Oates, W. E. (1992) "Environmental economics: a survey," *Journal of Economic Literature*, 30(2), 675-740.
 - ・ 森田恒幸・松岡譲(2002) 「地球温暖化予測シミュレーション」『オペレーションズ・リサーチ』 第 47 巻第 6 号, 353-359 頁。
- 著書の場合の参考文献の書き方 () 内は邦訳のある場合
- ・ Dasgupta, P. (2004) *Human well-being and the natural environment*, Oxford: Oxford University Press (植田和弘監訳『サステイナビリティの経済学—人間の福祉と自然環境』岩波書店, 2007 年)。
 - ・ 宇沢弘文 (1974) 『自動車の社会的費用』岩波書店。
- 単行本所収の論文の参考文献の書き方
- ・ 都留重人 (1996) 「方法論上の概念整理」環境経済・政策学会編『環境経済・政策研究のフロンティア』東洋経済新報社。
 - ・ Arrow, K. J. (1999) "Discounting, Morality, and Gaming," in Portney P. R. and Weyant, J. P. (eds.) *Discounting and Intergenerational Equity*, Washington, DC: Resources for the Future.
10. 図・表には, 題 (例: 世界各国の二酸化炭素排出量) および通し番号 (図 1,2, 表 1,2 とアラビア数字で) を付すこと。図の場合には図下中央に, 表の場合には左上に記すこと。すべてを参照文献のあとに, 参照の順番にまとめること。また, 文中で挿入部分を指定すること。
 11. 図・表は 1 つにつき, 小 400 字, 中 800 字, 大 1200 字として換算する。1 頁の字数が 2 段組で 1890 字(21 字×45 行×2 段組)であることを参考にして大きさを判断すること。また, 大きさを図 1 (大), 表 1 (小) というように指示をすること。
 12. 数式は, $y = ax + b$ (1) というように, 右側に番号をふること。数式 1 行につき, 21 字と換算する (1 行以上にわたる数式は, 21 字×行数と換算する)。